

政治研究結果報告書

—政治研究助成—

西暦 2024年（令和6年）2月27日

一般財団法人 櫻田會
理事長 増田 勝彦 殿

研究者 法政大学法学部教授
河野 有理

第41回（令和4年度）櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。
※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称（英語も記入） Research Theme

進化論の政治思想——長谷川如是閑を中心に——

Evolution Theory and Political Thought Focusing on Hasegawa Nyozeikan

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250 words 以内） Abstract (Purpose, Process, Significance)

This year's research primarily focused on organizing foundational resources within the field. Our efforts concentrated on gathering essential literature, historical documents, and theoretical frameworks to establish a comprehensive repository. This work lays a robust foundation for future investigations, facilitating deeper insights into key concepts and theories.

※研究の目的・研究方法・意義（和文 600 字以内）

長谷川如是閑（1875 - 1969）は、戦前・戦後を通して著名なジャーナリストである。大阪朝日新聞在籍時の1918年、いわゆる白虹事件で辞職を余儀なくされ、以後は『我等』によりつつ、時勢に対して批判的な論陣をはった。「大正デモクラシー」を代表する知識人であり、戦後は「オールド・リベラリスト」に数えられることになった。

この如是閑の研究については、従来、多元主義的国家観（田中浩）、「社会」領域の発見と定位（三谷太一郎、飯田泰三）、戦前前後を通じたマルクス主義との距離感（織田健志）といった様々な観点からの業績が提出されている。これに対し、本研究では如是閑の有機体的社会観、進化論的語彙や発

想に注目して分析を進めたい。従来の研究は、如是閑の思想が持つ同時代と比較した独自性を摘出することに傾注するあまり、如是閑の思想における「明治思想としてありがちな部分」には注目してこなかったように思うからである。如是閑は、明治初期に学制が整備される以前に自己の思想形成を進めた。当時の最新思想である進化論に親しみ、その語彙や発想を自家薬籠中のものにしていく。進化論という視角を採用することで、如是閑研究に新しい貢献ができるのではないかと考えている。

※研究経過と結果の概要（以下の欄に 35 行以内(1500 字程度)にまとめる）

本年の研究については、主に資料面の基礎的な研究が主となった。

まずは、著作集の検討である。

長谷川如是閑については、批判版『全集』の類は存在しない。ただし、『選集』は複数存在している。

栗田出版会から刊行された『長谷川如是閑選集』（全七巻＋補巻、1969-1970）と、岩波書店から刊行

された『長谷川如是閑集』（全八巻、1989-1990）、『如是閑文芸選集』（全四巻、1990-1991）がある。

両者を比較検討した結果、（１）それぞれ重複しつつも、かなりの異同がある点、（２）岩波書店版の方はほとんどが抄録である点、（３）栗田書店版については、戦前の伏字が本人によって起こされている原稿及び初出未詳の原稿が収録されている点がそれぞれ明らかになり、如是閑研究において著作集を用いることの困難さを確認した。

ついで、著作目録の検討である。著作集が、研究に際してあまり信頼が置けないということになると、いきおい初出情報を網羅した著作目録の存在が重要となる。如是閑の著作目録は比較的整備されており『長谷川如是閑 人・時代・思想と著作目録』（中央大学、1984 年）および個人（松田義男）HP で公開されている著作目録が存在している。ただし、これについても、プランゲ文庫等に収録されている占領期の雑誌について採録漏れがあることが指摘されており、今後も丁寧な検討が必要となることを確認した。

上記の基礎作業に並行して、如是閑の知的形成過程を考えるうえで、明治初期の進化論についてのサーベイも行った。加藤弘之、有賀長雄、丘浅次郎について、それぞれ著作にあたり、また最新の研究についてキャッチアップを行った。

※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）

「後藤新平の夢——ボーイスカウトと秩序構想」『環』別冊 28、2023/3

長谷川如是閑についての単著を準備中

【注】 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。